

# CASBEE® 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-Ncb\_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	障害者支援施設あびしや	階数	地上4F
建設地	京都府城陽市市辺石原1番地の2	構造	RC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	65人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年12月 予定	評価の実施日	2012年12月1日
敷地面積	4,353 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	681 m <sup>2</sup>	確認日	2012年12月10日
延床面積	2,358 m <sup>2</sup>	確認者	乾 康雄



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 92%  
 ③上記+②以外の 92%  
 ④上記+ 92%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 2.9**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

##### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.3**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 本施設は住宅に近接する部分もあるため、近隣への配慮を図ることが重要であるとする。また、施設内においても、ゆとりのある空間造りに努め、日常的にストレスを感じさせない施設とした。	<b>その他</b> 原則、連続バルコニーを設けることでメンテナンスを容易にし、長寿命化を図った。また、既存樹木を可能な限り伐採しない計画とし、一部を移植することとした。	
<b>Q1 室内環境</b> 複層ガラスの採用、各空間における遮音対応（グラスウールt=50充填）など、音環境において十分な配慮を行った。また、複層ガラスの採用により熱貫流の低い計画とした。天井高さをCH=2600に設定し、ゆとりのある空間	<b>Q2 サービス性能</b> ・耐久性が有り維持管理しやすい配管材料の使用。機能的でゆとりのある階高さ、天井高さを確保し心理的ストレスの排除に努め、快適な施設づくりを行った。また、鉄筋コンクリート造とし、構造躯体の長寿命化に配慮し	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 可能な限り現況の良好な環境の維持に努めた。
<b>LR1 エネルギー</b> ・複層ガラス、LowEガラスを採用。・高効率設備機器の採用。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水形器具の採用。	<b>LR3 敷地外環境</b> 建物配置は隣地から適切な距離を確保するよう配慮し、照り返しによる光・熱反射を起こさないよう配慮した。また、複層ガラスを採用することで本施設から外部に音を漏らさないなどの周辺環境への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される